

2023年度 兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム
第3回

本シンポジウムでは、芸術文化の社会的貢献に注目しました。芸術文化の性質を社会生活に組み込むような施策が、これからの社会においてますます重要になると考えられるためです。

日本社会では、言語・文化の均質性が高いため、国民性として「暗黙の了解」や「行間を読む」ことが好まれます。しかし、社会のグローバル化が進むと、異文化と出会う機会が増えることで、誤解や衝突が生じることは避けられません。したがって、グローバル社会でのコミュニケーションは、まずは私たちが「互いに分かり合えない」という前提にたって行うことが重要です。その上で、私たちが元来もつ「共感」する力を使い、異なる文化や価値観をもつ人々の悩みや苦しみの原因を把握することで、持続可能な「共生」に向けた一歩が築かれます。

芸術は、時として言語を使わずとも人々の心を動かすことができます。そのため、国内の芸術文化諸資源を効果的に活用することで、異文化と異文化の間、日常生活と非日常の間などにあるバリア（障壁）を緩和・解消することが期待できます。本シンポジウムでは、芸術文化施設、担い手の成長、社会・政策支援の中長期的連携に着目しながら、グローバル社会等における芸術文化の社会的貢献について皆様と一緒に考えてみたいと思います。

共生と芸術文化

— 持続可能社会の実現のために —

基調講演者

平田オリザ 林 洋子

芸術文化観光専門職大学学長 兵庫県立美術館長

パネリスト

※登壇者は都合により変更になる場合がございます。

平田オリザ 林 洋子

芸術文化観光専門職大学学長 兵庫県立美術館長

太下義之 小林瑠音

同志社大学経済学部教授 芸術文化観光専門職大学専任講師

討論者

中村 稔 兵庫県立大学政策科学研究所特任教授

司会

津田なおみ 甲南女子大学文学部専任講師

3月10日 日

14:00-17:00
(予定)
(開場 13:30)

AI・HALL

参加無料

伊丹市立演劇ホール

定員 会場150名 / オンライン500名

※オンライン参加の方は事前にZoomアプリをインストールしてください。
※当日の詳しいメールアドレスは、告知、要領書をお送りします。

アクセス

<車でお越しの場合>

- ・JR 大阪駅より宝塚線利用（所要時間約15分）
JR伊丹駅下車 改札より西側すぐ
- ・阪急大阪梅田駅より神戸線塚口駅乗換伊丹線利用（所要時間約22分）
阪急伊丹駅下車 東へ徒歩約10分

<車でお越しの場合>

- ・尼崎方面より：産業道路（尼崎池田線）を北上し「伊丹郵便局前」交差点右折、約200m進む
 - ・川西方面より：産業道路（尼崎池田線）を南下し「伊丹郵便局前」交差点左折、約200m進む
 - ・高速道路でお越しの方：阪神高速豊中北出口より府道（県道）99号を西へ、伊丹空港の地下トンネルを通過し、「伊丹1」交差点を左折、「伊丹郵便局前」左折、約200m進む
- ※伊丹市立アリオ地下駐車場をご利用ください。（注：アリオの専用駐車場ではありません）
※高さ2mまでの普通乗用車しか入庫できません。
※料金：乗用車30分150円（日・夜のみ1日7時～1200円 / 24時間）



申込 以下QRコードより要登録

※締切：2024年3月9日（土）



参加申込フォーム

<https://forms.gle/agQJE2hGH1Yr8Vw7>

（主催）兵庫県立大学政策科学研究所

（共催）芸術文化観光専門職大学、兵庫県立美術館、関西学院大学産業研究所、第22回知の創造シリーズフォーラム

（後援）伊丹市、豊岡市、（公財）兵庫県芸術文化協会

第3回 兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム

共生と芸術文化

-持続可能社会の実現のために-

主催 兵庫県立大学政策科学研究所

共催 芸術文化観光専門職大学、兵庫県立美術館、関西学院大学産業研究所、第22回知の創造シリーズフォーラム

後援 伊丹市、豊岡市、(公財)兵庫県芸術文化協会

日時：2024年3月10日(日) 14:00～17:00(予定)

会場：AI・HALL (伊丹市立演劇ホール) (13:30 開場)

共生と芸術文化

14：00 開催の挨拶

豊原 法彦 関西学院大学産業研究所 所長

14：05 趣旨説明・登壇者紹介

第Ⅰ部 基調講演

14：15 「芸術文化による対話型社会の構築を目指して」

平田 オリザ 芸術文化観光専門職大学 学長

第Ⅱ部 講演

14：50 「兵庫県立美術館は、時代と地域と「共生」できるか？」

林 洋子 兵庫県立美術館 館長

15：10 「英国アーツカウンシル：創設者ジョン・メイナード・ケインズを中心に」

小林 瑠音 芸術文化観光専門職大学 専任講師

15：30 「欧州の文化事業と持続可能な社会」

太下 義之 同志社大学経済学部 教授

～ 休憩 ～

第Ⅲ部 パネルディスカッション

16：10 パネルディスカッション「異質な他者との接触と共生 - 芸術文化の社会的貢献 -」

討論者：中村 稔 兵庫県立大学政策科学研究所 特任教授

16：50 閉会の挨拶

田中 隆 兵庫県立大学政策科学研究所 所長

17：00 終了(予定)

進行の関係上、実際の進行が表示時刻より前後することがあります。ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

講演概要（登壇順）

平田 オリザ 「芸術文化による対話型社会の構築を目指して」

芸術文化は、単なる娯楽として存在するのではなく社会において様々な役割を担っています。今回は、芸術文化によって人々を社会につなぎ止めておく「社会包摂」的な役割。そして、芸術の多様性が生み出す対話の力が、今後の日本社会にどのような役割を果たすかを考察していきます。

林 洋子 「兵庫県立美術館は、時代と地域と「共生」できるか？」

1970年秋に県政百年記念事業として、王子公園そばに開館した兵庫県立近代美術館は、1995年の大震災被害を経て、2002年4月に震災復興のシンボルとして、脇浜海岸に兵庫県立美術館としてオープンしました。ここでは、当館が旧館時代の1989年から30年以上継続してきた小企画「美術のなかのかたち—手でみる造形」展を起点に、公立美術館として先進的に取り組んできた、美術に「視覚」以外からアプローチする試みと、2023年からあらたに開始した手話通訳や要約筆記付きの「ゆっくり解説会」など、当館の時代や地域との共生への取り組みを具体的にご紹介します。

小林 瑠音 「英国アーツカウンシル：創設者ジョン・メイナード・ケインズの理念を中心に」

近年、文化施設や芸術祭の現場では、芸術文化以外の福祉、医療、子育て、まちづくりなど他の政策分野との領域横断的な協働の在り方が注目されています。これらの取り組みを持続可能な形で実装していくためにはどのようなシステムが必要とされるのでしょうか。この点について、英国発祥のアーツカウンシル制度を参照点とすべく、その基盤形成に携わった経済学者ジョン・メイナード・ケインズの視点を紐解いていきます。

太下 義之 「欧州の文化事業と持続可能な社会」

欧州文化首都とは、EU加盟国の中から毎年、都市を選定し、年間を通じて様々な芸術文化行事を開催する事業のことです。EUの「多様性の中の統合」という理念と密接に関連しており、域内の文化的共通性と多様性を同時に表現しようとする特徴があります。講演ではこの欧州文化首都にて実施された持続可能な社会を模索するプロジェクトを紹介します。最後に、兵庫県に対して、①アーツカウンシルの整備、②但馬地域での東アジア文化都市、2点を提案します。

登壇者略歴（登壇順）

<基調講演者>

平田 オリザ（ひらた おりざ）

芸術文化観光専門職大学学長。劇作家・演出家・劇団青年団主宰。江原河畔劇場芸術総監督。1995年『東京ノート』で第39回岸田國土戯曲賞受賞。2006年モンブラン国際文化賞受賞。2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。2019年『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞受賞。著書『わかりあえないことから』『演劇入門』『演技と演出』『下り坂をそろそろと下る』（以上、講談社現代新書）など。

<講演者>

林 洋子（はやし ようこ）

兵庫県立美術館館長。美術史研究者、キュレーター。パリ第一大学にて博士号取得。東京都現代美術館学芸員、京都造形芸術大学教員、文化庁芸術文化調査官を経て、2023年4月より現職。手がけた主な展覧会は「没後50年 藤田嗣治展」（2018-2019年、東京都美術館、京都国立近代美術館、パリ日本文化会館）、主な著作に『藤田嗣治 作品をひらく』（2008年、サントリー学芸賞ほか受賞）、『藤田嗣治 手しごとの家』（2009年）ほか。

小林 瑠音（こばやし るね）

芸術文化観光専門職大学講師。ウォリック大学大学院ヨーロッパ文化政策・マネジメント修士課程修了(MA)。神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程修了。博士(学術)。京都芸術大学非常勤講師、奈良県立大学非常勤講師、神戸大学国際文化学研究推進センター学術研究員等を経て現職。専門は英国文化政策、アーツカウンシル史。主著に『英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル：タンポポとバラの攻防』（2023年、水曜社）。

太下 義之（おおした よしゆき）

文化政策研究者、同志社大学経済学部教授。博士(芸術学)。文化経済学会<日本>理事、文化政策学会理事、デジタルアーカイブ学会理事。2025年大阪万博アカデミック・アンバサダー、公益社団法人全国公立文化施設協会アドバイザー。静岡県文化政策審議会委員、アーツカウンシルしずおかカウンシルボード議長、愛知県民文化局アドバイザー、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、など文化政策関連の委員を多数兼務。2023年、文化庁長官表彰。単著『アーツカウンシル』（水曜社）。

<討論者>

中村 稔（なかむら みのる）

広島県生まれ。1986年東京大学法学部卒業、通産省入省。在ポーランド大使館一等書記官、経済産業省大臣官房参事官、中東アフリカ室長、石油流通課長、兵庫県産業労働部長、近畿経産局総務企画部長等を経て2020年に退官。現在、兵庫県立大学特任教授、NAIST客員教授、新共創産業技術支援機構理事長、(株)ファウンテンラボ代表取締役社長。著書に「何が地方を起こすのか」（国書刊行会）等。「月刊たる」にエッセイ連載中。

<司会>

津田 なおみ（つだ なおみ）

兵庫県出身。愛知淑徳大学大学院文化創造研究科修了。現在、甲南女子大学文学部日本語日本文化学科専任講師。神戸芸術文化協議会員。映画評論家・フリーアナウンサー。著書に『映画監督田中絹代』神戸新聞出版センター（2018年）があり、神戸新聞で「津田なおみ厳選・兵庫舞台の名画」及び「銀幕かわら版」を連載中。





共生と芸術文化 —持続可能社会の実現のために—

共生と芸術文化

3月10日 AI・HARVEST

1. 共生と芸術文化の意義

2. 共生と芸術文化の推進

3. 共生と芸術文化の未来

4. 共生と芸術文化の課題

5. 共生と芸術文化の展望

6. 共生と芸術文化のまとめ

Speaker at the podium



プログラム

- 14:00 開催の挨拶
菅原 法彦 関西学院大学産業研究所 所長
- 14:05 趣旨説明・登壇者紹介
- 14:15 第1部 基調講演
「芸術文化による対話型社会の構築を目指して」
平田 オリザ 芸術文化観光専門職大学 学長
- 14:50 第2部 講演
「兵庫県立美術館は、時代と地域と「共生」できるか？」
林 洋子 兵庫県立美術館 館長
- 15:10 「英100アーツカウンシル：創設者ジョン・メイナード・ケインズの理念を中心に」
小林 昭吉 芸術文化観光専門職大学 専任講師
- 15:30 「欧州の文化事業と持続可能な社会」
太下 義之 同志社大学経済学部 教授
- ～休憩～
- 16:10 第3部 パネルディスカッション
「異なる価値との接触と共生-芸術文化の社会的貢献-」
討論者：中村 聡 兵庫県立大学政策科学研究所 特任教授
- 16:50 閉会の挨拶
田中 隆 兵庫県立大学政策科学研究所 所長
- 17:00 終了(予定)

ご参加くださりありがとうございます。
開始時刻まで、いましてばらくお待ちください。



プログラム

14:00 開会の挨拶
田中 隆雄 関西学院大学学長兼文学部長

14:05 趣意説明・登壇者紹介

第1部 基調講演
14:15 「芸術文化による対話や社会の構築を目指して」
平田 幸太郎 芸術文化研究センター所長

第2部 講演
14:50 「芸術文化の芸術性は、時代と地域と「共有」できるか？」
林 一洋子 芸術文化研究センター所長

15:10 「米国アーツカウンシルと実践者ジョン・マイケード・アイズワースを中心に」
小林 智治 芸術文化研究センター所長

15:30 「欧州の文化事業と持続可能な社会」
上野 真之 関西学院大学経済学部教授

～休憩～

第3部 パネルディスカッション
16:20 パネルディスカッション「芸術な働きとの関係と共有：芸術文化の社会的役割」
討論者：中村 健 関西学院大学経営学部長兼学芸部長

16:50 閉会の挨拶
田中 隆雄 関西学院大学学長兼文学部長

17:00 終了(予定)

ご参加くださることをお待ちしております。
開始時刻まで、いそいそとお待ちください。



共生と芸術文化 —持続可能社会の実現のために—

(主催) 芸術文化観光専門職大学 兵庫県立美術館 同僚学院次学産産研究所 第20回初級国際シンポジウム「共生」(共催) 兵庫県立芸術文化センター

社会における芸術の役割

- 芸術そのものの役割
- コミュニティ形成や、維持のための役割
(社会包摂)
- 直接、社会に役に立つ役割
教育・観光・経済・福祉・医療



共生と芸術文化 —持続可能社会の実現のために—

(共催) 芸術文化振興専門職大学 兵庫県美術館 (主催) 兵庫県立大学政策科学研究所 西宮学院大学建築研究所 第2回都市の創造「リーディング・プラットフォーム」(共催) 伊丹市 兵庫県美術館文化協会

兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム
林 洋子(兵庫県立美術館・館長) 2024年3月10日

兵庫県立美術館は、時代と地域と「共生」できるか？

- 1970年10月、**兵庫県立近代美術館**として創設
(県政百年記念)
- 1951 博物館法、交付。
神奈川県立近代美術館オープン
- 1952 東京国立近代美術館
- 1970 日本万国博覧会(大阪)
和歌山県立近代美術館

- 2002年**兵庫県立美術館**として開館
(震災復興のシンボル)
- 2001 文化芸術振興基本法
- 2017 文化芸術基本法(改定)
- 2022 博物館法改定



兵庫県立美術館屋上に設置されたバレーン「美かえる」

林 洋子



共生と芸術文化 —持続可能社会の実現のため—
(主催) 高専芸術文化研究会 高専芸術文化研究会 高専芸術文化研究会 高専芸術文化研究会

英国アーツカウンシル
：創設者ジョン・メイナード・ケインズの理念を中心に

芸術文化観光専門職大学講師
小林瑠音

2024/3/18



2024年3月10日

欧州の文化事業と 持続可能な社会

文化政策研究者 太下 義之



共生と芸術文化 —持続可能社会の実現のために—

(共催) 芸術文化観光専門職大学

兵庫県立美術館

(主催) 兵庫県立大学政策科学研究所
関西学院大学産業研究所

第22回 持続可能社会の未来フォーラム (後編) 1/2

(協賛) 兵庫県立芸術文化センター



中村 裕



平田オリサ



林 洋子



小林 遥音



山下 義之



中村
稔

筑波大学政策科学研究室
特任教授





平田オリザ

林 洋子

小林 瑠音

太下 義之



平田オリザ

林 洋子

小林 隆吉